

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ものづくり技術者の育成を通して人づくりを行い、地域社会に貢献し信頼される学校をめざす。
- 1 人格の陶冶を育む学校（すべての教育活動を通して、自己規範力を養い、自ら学び自ら変える力を育成し人格の陶冶をめざす）
 - 2 自立した工業人の養成を实践する学校（産業界の変化に対応できる基礎学力と資格取得の向上により、創造力豊かな学技兼備の工業人の養成をめざす）
 - 3 健全な社会人の育成を实践する学校（基本的生活習慣と規範意識を高め責任感に富み、心身共に健やかで心豊かな社会人の育成をめざす）
 - 4 教職員のベクトルが一致し、成果が結集する組織的な学校（課題を共有し各方向から取組みを实践し、生徒の成長に寄与し達成感・充実感がある学校）

2 中期的目標

- 1 生徒の自信と自己実現を充実する
 - (1) 確かな学力の育成についての取組
 - ア 1学年については8クラス9展開のクラス運営を継続し、一人ひとりに応じたきめ細かな指導の充実を行う。
 - イ 少人数展開を実施し、また、習熟度別授業をすることで「わかる授業」を行い、生徒の自信と意欲を培う。
 - ウ 基礎学力の向上に向け、朝学の充実を図り基礎学力や資格取得等の学習力の向上を図る。
 - (2) 基本的生活習慣の向上（生活指導の充実）
 - ア 全職員での取組みを深め、生徒自らが自己に気づき自ら改善し、基本的生活習慣の向上・充実を図る。
 - イ 保護者との連携を密に行い、生徒自らが遅刻の減少に努める指導・支援の充実を図る。
 - ウ 支援教育コーディネーターを中心として、支援の在り方を組織的に取り組む。
 - エ 部活動への入部率の向上を図り、生徒の自立心を育み、生徒会活動の活性化を図る。
 - (3) 実践的スキル養成重点型校として、教育活動の更なる充実を行い生徒の意欲高揚充実を図る。
 - ア 資格支援センター機能を充実させ、生徒一人ひとりのキャリアプランに応じた資格取得の充実を図る。
 - イ 資格取得の充実を図るため、調査研究等を行い、組織的活動の組織体制を構築する。
 - ウ 各種技能大会参加への組織的充実を図り、生徒の達成感や自己肯定感を向上させ目標を持った学校生活の充実を図る。
- 2 工業教育の充実
 - (1) 「深化と接続」の理念を生かした工業教育を推進する。
 - (2) キャリア教育の一層の推進・充実を行い、一人一人の進路実現の充実を図る。
 - ア 学年進行のキャリア学習の充実を行い、一人ひとりに応じた学習環境の改善等について組織的に取り組む(就職一次試験合格 85%)。
 - イ インターンシップや企業見学、企業経営者による講演等機会を増し、キャリア教育の充実を図り卒業後の定着率(離職率 10%以下)の向上を図る。
 - (3) 地域の小・中学校への、公開授業（実験実習）を充実し、本校の専門性を発揮し児童生徒に工業教育への興味関心を深める。
- 3 教員の資質向上
 - (1) 学校組織の充実と、平均年齢 42 歳、初任者が 34%であるので、初任者等校内研修を積極的に行い人材育成に努める。
 - (2) 教員相互の公開授業や研究授業を積極的に行い、わかる授業への向上と ICTを活用した教材開発を図る。
 - (3) 人権研修の充実を図り、人権尊重の教育を推進する。
- 4 開かれた学校づくり
 - (1) NPOや各種団体と連携を深め、生徒が積極的に外部と繋がることで、生徒の気づきを促し夢や志を育むことを図る。
 - (2) 堺・高石地域の地場産業や公共団体との連携を通して、生徒が自らの目標と将来への夢を育む活動の充実を図る。
 - (3) ものづくり教育を通して、小中学校や支援学校との連携を図り、専門教育への興味関心を高める活動の充実を図る。
 - (4) 学校のWebページの充実を図り、信頼と透明性のある学校づくりを行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導学習や、放課後や早朝に補習や各種資格取得のための講習会を展開し、教科指導や資格取得に工夫や改善に努めている。 ・保護者の 80%は、本校で工業に関する知識や技術が身に付いたと回答。 ・保護者の 85%は、学校の進路や職業指導が適切であると回答している。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業に関する十分な知識や技術を身に付けさせて卒業させているが、82%あり、多くの教員が参画して努力している。 ・生徒の基本的生活習慣が確立しているが 50%あり向上している。 ・生徒や保護者は指導を納得しているが 75%あり、決め細やかな指導ができていない(あまり当てはまらないが 22%である) ・保護者は学校の生徒指導方針に 83%が理解している。 <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画会議、運営会議、系長会議、主任会、分掌、学年等会議を、時間制の中に組み入れ、放課後の会議を減少させ、放課後は部活動や補修や資格取得など生徒指導時間としているが、各会議の報告が徹底できず教員間の意思疎通が不足している。 ・教育活動全般の評価を行い、次年度計画に生かしているが 67%あり全体として組織的に運営ができつつある。 ・生徒の資格取得等のサポート体制が確立しているが 82%あり組織的に活動できるようになっている。 ・生徒一人一人に適切な進路指導ができていないが 76%あり、きめ細かい指導ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回（5 月 22 日実施） ○実践的スキル重点校として、生徒の資格取得率が向上している事は、生徒の自信となっているので、継続して充実を図って欲しい。 基礎学力の向上に継続して取り組んでいる事は評価できる。内容の充実を図って欲しい。 ○生徒のキャリア学習と自立心向上に、インターンシップの拡大と充実を図って欲しい。 ○平成 28 年度入試システムの変更や中学卒業生の減少などあるので、ホームページやマスコミなどへの情報の発信を充実させる事が大切である。 ○教員の新規採用者（36%）の急増などに対応した校内取組が大切である。 ・第 2 回（10 月 23 日実施） ○新作の学校紹介 DVD は、本校の専門性が良くわかる内容である。中学校 200 校への配布などだけでなく、Web ページの充実も図ることが求められる。 ○中学生向けの学校紹介の広報活動も積極的であるが、保護者には卒業後の姿として、卒業生の活躍を巻き込んだ取組みも検討して欲しい。 ○授業見学して、本文の授業の充実も更に推し進めていただきたい。 ○1 年生クラスの増設少人数制(学校独自努力)や資格取得の成果など、先生方の努力が現れてきている。 ・第 3 回（2 月 23 日実施） ○各系とも技能競技会やコンクールで、他校に比して優秀な成績を収めていることは、生徒や教員の努力が表れている。特筆は全国製図コンクールでの最優秀特別賞である。 ○工業高校の中では評価が高いが、入試制度が一本化されたので、これからは普通科高校との厳しい競争が生じる。更なる工夫が求められる。 ○生徒の生活問題事象や遅刻の激減は、生徒の自信となる。先生方の努力の成果である。 ○授業アンケートから教科ごとの特徴があり、授業力の向上の充実と工夫が求められる。

府立堺工科高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
生徒の自信と自己実現を充実する	<p>(1) 確かな学力育成への取組</p> <p>ア 少人数指導の取組</p> <p>イ わかる授業への取組</p> <p>ウ 基礎学力向上への取組</p> <p>(2) 生徒指導の充実</p> <p>(3) 実践的技能養成重点型校として、教育活動の更なる充実を行う</p>	<p>ア・第1学年については、数学と英語について少人数指導を継続する。</p> <p>・進級卒業規定等内規の継続検討をする。</p> <p>イ・教員相互による公開授業を行い、わかる授業への教員の授業力向上を図る。</p> <p>ウ・朝学の充実を図り、継続により学力への自信を構築する。</p> <p>ア・マナーを含め生活指導の在り方を研究・改善する。</p> <p>イ・遅刻指導の在り方を研究・改善する。</p> <p>ウ・支援教育コーディネータを中心として校内支援教育体制の充実し、個に応じた指導の充実を行う。</p> <p>エ・生徒の自主自立精神を育むため部活動の活性化を図る。</p> <p>ア・資格取得の充実を図るため、資格支援センターを中心に、校内組織としての組織活動の充実を図る。</p> <p>イ・技能競技会への取り組みを積極的に推進する。</p>	<p>ア、イ、ウ・授業評価や学校教育自己診断アンケート結果で、学校生活や授業等満足度を前年度の10%向上をめざす。(H26年度54%、H27年度60%)</p> <p>・多様な生徒の実態に応じた、進級卒業規定を継続的に検討する。</p> <p>ア、イ、ウ・生徒指導に関する教員の共通認識を再度確認しながら、学校としての統一的指導を行う。また、新入生の全中学校を訪問し、一人ひとりの状況に応じた指導を行い、中退及び留年者数を前年度の10%改善をめざす(H26年度318名)。</p> <p>エ、部活動への入部率40%以上とする。(H26年度36%)</p> <p>ア、資格取得率を各検定ごとに、昨年度以上をめざす。(H26年度第1学年96%)</p> <p>・ジュニアマイスターの受賞者を、平成26年度より10%向上させる。(H26年度11名)</p> <p>ウ、3つの技能競技大会で上位入賞を目指す。</p>	<p>・アイウ 生徒の学校満足度は、10%を超えることができた。○</p> <p>・生徒指導力の向上により、中退及び留年者数は前年度の10%改善できた。◎</p> <p>・部活動入部率は、最終的に37.5%で、昨年度より2%UPに留まった。2年3年生は昨年より6%増えたが1年生の加入が低迷した。△</p> <p>・資格取得率は、トータル的合格率は8%上がったが、全ての資格項目では合格者は下回ったものもあった。○</p> <p>・ジュニアマイスターの受賞者は、本年度も特別表彰を2年連続受賞できることとなり、府立学校では10数年ぶりである。◎</p> <p>・全国大会では機械製図が特別表彰(8位以内/約2800人)。大阪大会では、電気工事部門(1位、2位)、電子回路部門(2位)、溶接部門(1位)と多くの生徒が受賞し、生徒のみならず教員の自信にもなった。◎</p>
工業教育の充実	<p>(1) 「接続と深化」の理念を生かす工業教育の推進</p> <p>(2) キャリア教育の一層の推進・充実を行い、一人一人の進路実現の充実を図る。</p> <p>(3) 地域の小・中学校児童生徒に、工業教育への興味関心を深める。</p>	<p>ア・進路指導部と学年の連携を深め、進路選択がスムーズに進むよう、組織的指導体制を整える。</p> <p>イ・進学希望生徒への指導体制を整える。</p> <p>ア・各学年での「キャリアガイダンス」の指導の充実を図り学校としてのキャリア教育の積上げを行う。</p> <p>イ・インターンシップを積極的に推進し、将来単位認定を検討する。</p> <p>ア・本校専門性を、地域小・中学校生徒へ公開し工業教育への関心と興味を広める。</p>	<p>ア・就職一次試験での合格率85%以上を目指す。(H26年度78%)</p> <p>イ・補習体制を構築し進学希望者の合格率を10%向上させる。</p> <p>ア・各学年、年間2回以上外部講師による講演や企業見学を実施する。</p> <p>イ・インターンシップ参加者を20%アップさせる。(H26年度56名)</p> <p>イ・7月に昨年度卒業生の離職率を調査し、離職率10%以内とするようキャリア教育の充実を図る。(H26年度未調査)</p> <p>ア・地域小・中学校生徒の実験実習等の参加授業を3回展開する。</p>	<p>・就職一次試験の合格率は、82.9%で昨年を大きく上回ったが、85%には至らなかった。○</p> <p>・進学希望者の合格率は、80%で目標を達成した。◎</p> <p>・生徒の進路学習充実のために、年2回以上の講演や見学が実施できた。○</p> <p>・インターンシップ参加者は103名で、昨年度の2倍近くであった。◎</p> <p>・昨年度卒業生の離職率は6%であった◎</p> <p>・地域連携学習は、体験学習会などを通して参加型授業を3日実施した。○</p>
教員の資質向上	<p>(1) 本校は、平均年齢42歳、初任者が34%である。初任者等校内研修を積極的に行い人材育成に努める。</p> <p>(2) 教員相互の公開授業や研究授業を積極的に行い、わかる授業への向上とICTを活用した教材開発を図る。</p> <p>(3) 人権教育の推進をする</p>	<p>ア・教員相互に研究授業を実施し、教員個々の教科指導力の向上を図る体制を図る。</p> <p>ア・公開授業をとおして、学校としての教育力の向上とICTを活用した教材開発を図る。</p> <p>イ・中学校教員向けの授業公開を行い、見られることから授業力の向上を図る。</p> <p>ア・人権教材の資料を整理し、授業で活用できるようにする。</p> <p>イ・教員の障がい理解や人権意識を高める研修を実施する。</p>	<p>ア・教員の研究授業を各科系で年間2回以上開催する。</p> <p>ア・公開授業週間を実施し、全教員相互の授業見学により教育力の向上を図る。(教員の参加率50%) (H26年度25%)</p> <p>イ・年間に10日授業公開を行う。</p> <p>ア・ホームルーム等を活用して人権教育の充実を図る。</p> <p>イ・教員研修を年間5回以上実施する。</p>	<p>・教員の研究授業は、各科・系で年間3回以上実施し、授業力の向上を図った。◎</p> <p>・公開授業は12回実施できたが、教員の参加率は30%以下であった。△</p> <p>・公開授業は、校内のみを含め年間22回実施できた。◎</p> <p>・人権教育は、ホームルームと学年行事として実施し、人権教育の推進が図れた。○</p> <p>・教員研修は、校長裁量予算も活用し他県を訪問するなど年間に12回実施できた。◎</p>
開かれた学校づくり	<p>(1) 連携事業を通して、生徒の気づきを促し夢や志を育む。</p> <p>(2) 外部連携を通して生徒が自らの目標と将来への夢を育む活動の充実を図る。</p> <p>(3) 小中学校等との連携を図りものづくり教育を通して、本校の専門性を発揮する。</p> <p>(4) Webページの充実を図り信頼と透明性のある学校づくりを行う。</p>	<p>ア・地域の企業や団体と協同し、生徒が積極的に参加できるよう組織と事業の充実を図る。</p> <p>ア・課題研究や授業等を通して、地域との連携事業の充実を深め、生徒の学習意欲を高める。</p> <p>イ・専門性を活かし、堺地域コンソーシアム推進会議等の活動を通して、地域企業等との連携を深める。</p> <p>ア・ものづくりを通して小中学校等との連携を図り、専門高校への興味関心を高める活動を行う。</p> <p>イ・障がいのある生徒との共同学習を積極的に行い、豊かに生きる力を育成する。</p> <p>ア・情報発信の充実を図るために、Webページや携帯電話連絡網の充実を図る。</p>	<p>ア・学校として窓口を一本化し、連携事業を整理し、充実した連携組織と事業の充実を行う。</p> <p>ア・地域地場産業との連携を一層深めると共に、授業や部活動等の充実を行う。(年3回以上)</p> <p>イ・水質検査や溶接講習・たたら製鐵等を行い、生徒の学習意欲の向上を行う。</p> <p>ア・近隣の小中学校3校に対し、ものづくり体験教室を年間で3回以上実施する。</p> <p>イ・障がいのある生徒との交流等を2回以上行う。</p> <p>ア・Webページの更新は2週間に1度行う。(H26年度3週間に1回)</p>	<p>・地域連携については、首席が窓口となり、各科系長と連携し、専門分野の充実が図れた。◎</p> <p>・地域地場産業との連携は、刃物づくりや電気工事講習や溶接や機械製図などで、地域との連携を深められた。(年14回以上)◎</p> <p>(溶接6回、機械製図2回、電工ものづくり2回、いたすけ古墳清掃2回)</p> <p>・ものづくり体験教室の開催については、1回しかできていない。△</p> <p>・障がいのある生徒との交流は年間7回授業を通して開催し生徒の意識改革ができた。◎</p> <p>・学校Webページは1月に全面一新し見やすくなったのと同時に発信力を高め、入力の手軽化ができた。また、更新は平均として2週間に1度できた◎</p>